

**(問9) 個に応じた授業づくりを進めるためには、どのようなことに気を付けるとよいのですか。**

障害のある幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じたきめ細かな指導を充実するためには、図4に示すようにマネジメントサイクル(A・P・D・C・A)に基づいた授業改善を計画的・継続的・組織的に進めることが大切です。

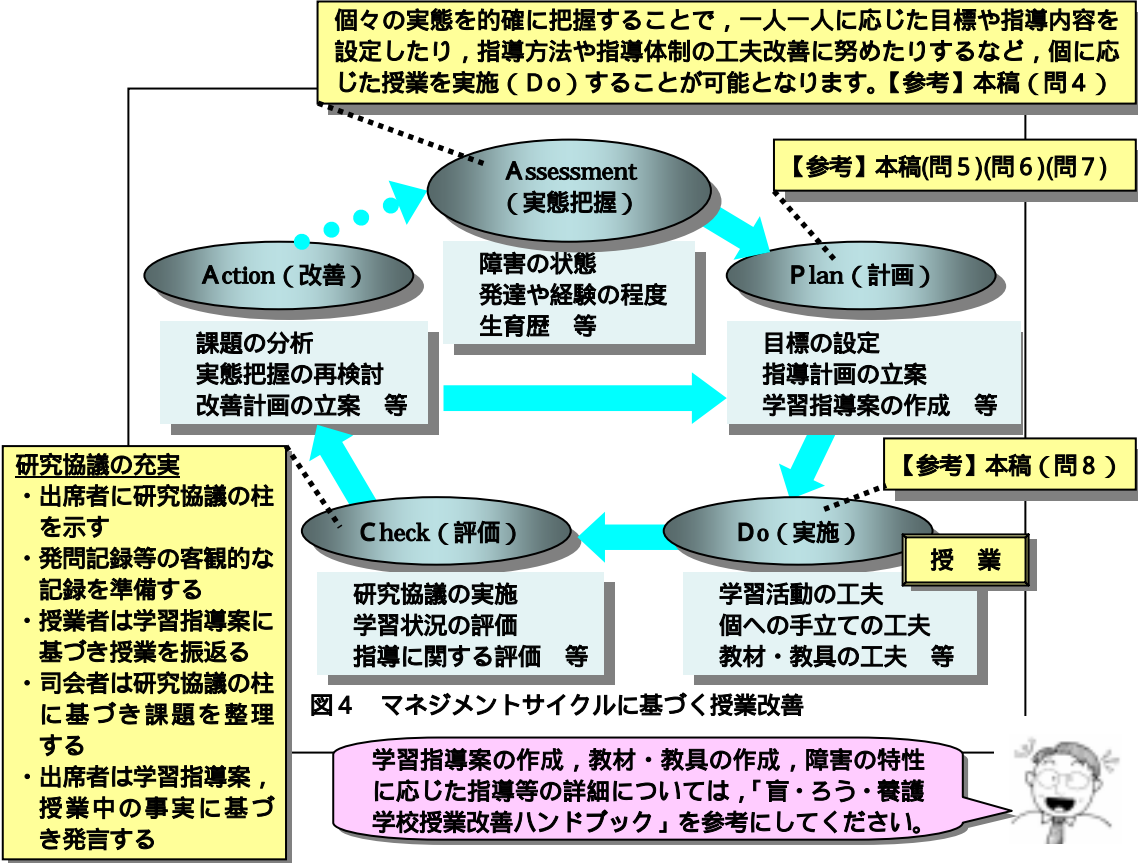


図4 マネジメントサイクルに基づく授業改善

**実践紹介：重度・重複障害のある児童生徒に対する個に応じた自立活動の工夫**

**広島特別支援学校(特別支援教育授業改善推進事業 研究指定校)**

「重度・重複障害のある児童生徒に対する自立活動の指導及び教育課程の編成の在り方」を研究テーマとして、三つの柱で研究を進めています。

訪問教育におけるテレビ電話の活用(テレビ電話及びコミュニケーション支援機器を活用した訪問教育の実践研究)

教材・教具の工夫(児童生徒が主体的に生き生きと活動するための教材・教具の開発を進めながら授業改善の実践研究)

自立活動の指導内容及び指導方法の研究(障害の状態や発達段階に応じた自立活動を主とした教育課程の実践研究)

については、障害のため通学して教育を受けることが困難な児童生徒に対して、教員を家庭に派遣して教育を行う場合に、図5に示すようなテレビ電話システムをつくり指導を行っています。

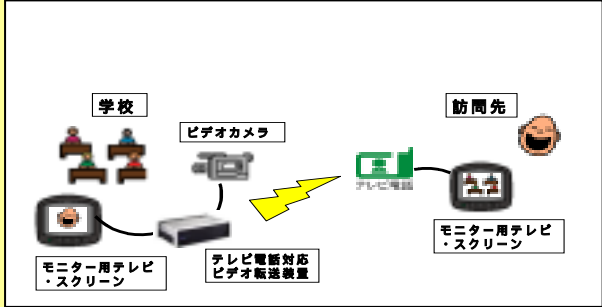


図5 テレビ電話システムによる訪問教育の指導

実践紹介：個に応じた授業改善の工夫

神石高原町立油木小学校（平成18年度特別支援教育授業改善推進事業 研究指定校）

児童の実態に基づき研究のサブテーマを設定し、研究のメインテーマ・サブテーマに迫るため、授業改善の工夫の観点を設定しました。さらに、設定した観点ごとに具体的な取組みの方法等を明らかにした上でそれらを学習指導案に示し、個に応じた指導の充実に取り組み、成果を上げています。

【研究のメインテーマ】障害児学級における教育課程の編成及び障害の状態等に応じた指導の在り方

学級	たんぼぼ学級（情緒障害障害児学級）	ひまわり学級（知的障害障害児学級）
研究のサブテーマ	児童が活動に見通しをもち、意欲的に学習に取り組む授業づくり	一人ひとりが自分の学習課題に取り組み、課題解決する授業づくり
サブテーマ設定の理由	児童は新入生1名で、新しい場所に行ったり次にすることが分からなかったりすると不安になりやすい。そのために生活に慣れることが大切である。そこで、安心して生活や学習に取り組める環境づくりが大切だと考えた。学習では、活動のパターンを知らせることにより見通しをもたせれば意欲的に学習に取り組むことができるであろうと考えた。	児童3名は、一人ひとり実態が異なっている。そのため、学習では個に応じた課題と、それに対する支援が必要である。個に応じた支援を工夫することにより、一人ひとりが自分の学習課題に取り組み、課題解決することができるであろうと考えた。
授業改善の工夫	<p>視覚的支援の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>場所や場面を明確にすることにより、今しなければならぬことを分かりやすく示す。</li> <li>活動内容や方法、手順等を実演や写真・絵・文字などを使って分かりやすく示す。</li> <li>注目しやすいように、大切なことに限定した提示の仕方をする。</li> </ul> <p>活動の見通しがもてる工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>事前に活動の内容や順番を示す。</li> <li>手順表などの手がかりを使い、何をすればよいのかを具体的に示す。</li> <li>活動の終わりを明確にする。</li> <li>意思を伝えやすくする工夫</li> <li>指導者が児童の理解できる言葉で、大切な内容を整理して伝える。</li> <li>簡単な決まり文句を伝えて、適切な場所や場面でそれらを使えるようにする。</li> <li>具体物や写真・絵・文字などを使って言語理解の促進を図る。</li> <li>主語と述語のある文章で表現させる。</li> </ul> <p>感覚刺激への配慮</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>物音、人の声、雑音等の聴覚的な刺激の調整をする。</li> <li>気になる物は事前に取り除いておく。</li> </ul>	<p>学習の流れの提示</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1時間の学習の見通しがもてるように、学習の流れを教室に提示する。</li> <li>学習の中で、今何をしているのか意識させる。</li> <li>意欲づけ（内発的動機づけ）</li> <li>必然性があり、興味・関心のもてる課題の提示を工夫する。</li> <li>係の児童が進行し、児童間の関わりをもつことで、自分たちで学習していくという意識をもつように促す。</li> <li>できた・やったという成功感・成就感の体験や成功感の想起を促す。</li> </ul> <p>個に応じた課題設定の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>細かいステップで段階を追ったものを設定する。</li> <li>自分のめあてを意識できるように個に応じて分かりやすく提示する。</li> </ul> <p>個の課題に合った手だての工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>何をすれば課題解決できそうか見通しをもった上で学習を始める。</li> <li>目標に迫るような発問を工夫する。</li> <li>課題解決に向けて自己選択・自己決定できるようにする。</li> <li>見て分かる分かりやすい評価をする。</li> <li>言語技術（主語と述語、結論から理由、ナンバリング）や関わり発言を身に付けるように指導し、自分の考えを発表する手段となるように促す。</li> </ul> <p>教材・教具の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>既習学習を活かす</li> <li>一人ひとりの目標が達成できるものを準備する。</li> </ul>

引用・参考文献

広島県教育委員会「盲・ろう・養護学校授業改善ハンドブック」平成18年

神石高原町立油木小学校「平成18年度特別支援教育授業改善推進事業のまとめ」平成19年